

7月予定

日	曜	予 定	日	曜	予 定
1	水	2年学習確認プログラム	16	木	三者懇談③
2	木	2年学習確認プログラム	17	金	三者懇談④
3	金		18	土	
4	土		19	日	
5	日		20	月	海の日
6	月		21	火	三者懇談⑤
7	火		22	水	部活動表彰 大掃除
8	水		23	木	夏季休業開始(~8月25日)
9	木	校内授業研修	24	金	
10	金		25	土	
11	土		26	日	
12	日		27	月	
13	月		28	火	
14	火	三者懇談①	29	水	
15	水	三者懇談②	30	木	
			31	金	

8, 9月の主な予定

8月26日(水)2学期開始

9月3日(木)、4日(金)第2回定期テスト

9月11日(金)保護者参観 進路保護者説明会動画配信

9月18日(金)伏見支部授業研修会

「夢や希望は必要か」

一万時間の理論をお聞きになられたことがありますか？

ある分野で一流のスペシャリストになるためには、おおよそ一万時間の地道な練習や学習が必要であるという説です。

一万時間というと、毎日三時間休まず続けて九年、毎日五時間取り組んで五年半ほどです。

多くの大人は、子どもたちに「夢と希望」を持ってもらいたいと考えます。私もその一人です。その多くの大人の中で、中学生時代の自分の夢を実現できた人は、ほぼいません。ではなぜ？

「報われる」とがわかっているなら、どんな努力でも重ねられる」
努力が必ず報われるとは限りません。残酷な現実です。でもこれには但し書きがあります。結果として、努力が形にならないことは多くありますが、必ず足跡が残ります。努力を重ねた過程は必ず残り、その人の生きた証になります。その努力ができたのはその人に「夢や希望」があつたからです。目標が見えない中では、歩みを進めることはできません。結果として目標とは違う場所に着地したとしても、目標設定は必要です。だから、大人は子どもに「夢や希望」を持たせたいのではないのでしょうか？

「這えば立て立てば歩めの親心」といいます。親心は身勝手なものです。子どもたちのペースを自分のペースに置き換えて考え、子どもに

過度な期待を背負わせてしまいます。旅行の往復を思い出してください。行きと帰りで体感時間は大きく変わりませんか？子どもたちは初めての前路に戸惑いながらもワクワクしつつ歩いています。ペースを知っている大人がとやかく言うことは不要です。

成長には刺激が必要です。人間は普段、社会や狭い人間関係の中で、仕事や学習を重ねています。同調圧力の強い日本社会ですが、成長するには一人でいる時間を大切にしなければなりません。冒頭の一万時間、横並びでは達成不可能でしょう。友人や同僚の輪の中でルーティンワークをこなすこと、これはこれで必要なことですし、安全です。いわゆる「コンフォート・ゾーン」の中です。この中では今以上の成果は期待できません。成長するにはその少し外側「ラーニング・ゾーン」に自

ら入る勇気が必要です。大人の役割は、子どもたちに夢や目標を持つことの大切さを教え、子どもたちが抱くそれらを否定しないことです。先が見えないことを楽しみにできるような、前向きな子どもたちが多く育つことを願います。

ノーベル賞作家、カズオ・イシグロの「私を離さないで」を読みました。設定された世界観が「約束のネバーランド」とよく似ていましたが、展開が全然違って興味深かったです。

夏を感じる日々になりました。みなさま、どごうぞう自愛ください。